

# 令和元年度第1回京田辺市総合教育会議 会議録（要旨）

1 開 会  
事務局進行

2 市長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 議 事

(1) 教育大綱（案）について

事務局説明

(教育長) 道徳科という表記と特別の教科道徳（道徳科）という表記があるので、特別教科道徳（道徳科）のほうがいいと思う。

(委員) 私もそう思う。一般的には特別の教科とよんでいる。いわゆる一般の教科とは別にしている。

社会の変化に対応する教育の推進というところで、外国語も5、6年生では必修教科になったので、京都府との整合性もみて検討されてはと思う。

(教育長) 教育の方針では8ページの国際理解教育の中で「外国語活動の教科化に向けた…」とある。これを見ると大綱のほうには問題がない。

(事務局) 主な取組の中に具体的なことは書いているので、目標では細かくうたっていない。

(委員) 目標で上げるかどうかは、個人的には大きな柱になっており、あってもおかしくないとは思うが、構成上等、事務局で考えていただいているのかもしれない。

(委員) 教育の方針には出ているが、大綱には載せてないのはそういうことなのか。

(事務局) 主な取組の中に、プログラミング的思考と書いてあるが、目標としては書かれていない。

(委員) 情報教育に関しては、情報活用能力があるので、プログラミングも入れたという理解できるが、国際理解教育の中での外国語というのは、この文面だけでは出てこないので、取組から目標に上げてはどうかと思う。

(委員) その辺りの特色を現場で発揮しているかというところで考えると、市としては外向けに目標に掲げてはと思う。

(委員) 3ページの4番、就学前教育ということで、大綱の中には上げているが、来年度の組織改革で、幼稚園は教育委員会とは違う部署という意味で、※が付いているそうだ。

(事務局) 就学前教育の※については、教育の方針の4ページの4番。

本来だと一致しているべき就学前教育が幼稚園教育となっている。市としては、就学前教育、保育所も幼稚園も実施しているが、教育委員会としては幼稚園の教育というのが範疇となっており、表現が違うところがあるという意味での※。

- (委員) 保育園教育の中でも就学前の部分を共有化していくような実用性が基本的には必要かと思う
- (教育長) 今年度の段階ではこれでおさまるのか。
- (委員) ここに上げておくのは問題ないと思いますが、どういう形で下ろしていくかということかと。
- (市長) 先日、教育長とも話をしたが、幼児の教育課程のところについては、基本的に教育委員会がベースとして持ち、実務的に運営するというところは教育委員会から外れるが、教育課程のところは、ベースとして外さないという議論はさせてもらっていたところ。
- (委員) 保育所、幼稚園かわらず、5歳で身に付けるという力というふうに指導要領等で出ており、保育所を含めたカリキュラムの検討が必要かと思うので、カリキュラムに関しては教育委員会でさせてもらうといいのではないかと思う。
- (委員) 幼児教育、保育園の4歳、5歳の教育という視点の部分を大事にし、小学校へつながるというもの。
- (委員) 今、そういう課題が保育所には出ている。
- (委員) 幼小連携とか保幼小連携を大事していかなければならないと思う。
- (事務局) 教育指針、保育指針と教育要領の5歳児の目標が10項目一致したというところで、こども園化も見据えて、幼保小の接続カリキュラムを既につくっていく。
- (市長) 幼保小のつなぎは大変重要になってくるし、そういう部分を踏まえた取組、取扱いということにさせていただけたらと思う。そのほか、この大綱に関してご意見を頂戴できればと思う。
- (事務局) 確認をさせていただきたいと思う。赤字のところは直すところ。3ページの道徳科のところは、特別の教科道徳（道徳科）と直すということ、4ページの国際理解教育ところ、もしくは別項目で外国語教育をどのように入れるかは再度検討させていただくというところ。その3点について、改めてお示しをさせていただいて、策定という形でよろしいか。
- （「はい」と言う者あり）
- (市長) ただいまのご意見を踏まえ、事務局において京田辺市教育大綱（案）を修正させていただき、大綱を策定していきた

いと思う。

## (2) 意見交換

- ・教育諸問題（学区再編、不登校など）解決に向けた教育委員等懇話会の設置について

（教育長） 市長のマニフェストの中で、学校再編とか一貫教育構想とか具体的な中身を出されているというのはすごく大きなことで、大切だと思っている。ただ、学区や一貫教育については、様々な地域の感情や意識もあるから、いきなりな感じもあるが、そういうことも想定しながら一つの目標を持ってやるのは大切なと思っている。

その中で、今、喫緊の課題である不登校もしっかりとと考えながら、仮に中高一貫によって、中一ギャップがなくなるとか、魅力ある学校をつくることによって、学校で学びたいという気持ちが湧くとか、あるいは充実した教育によって、自己肯定感が生まれるとか、それが結果的に不登校を減らす効果も出るだろうかとか、場合によっては、特認校にすることによって、一定の生徒が移動し人数のバランスがとれるだろうか、という思いがあり、マニフェストに沿った部分を線としながら、その上に今の課題を並行して考えていくのがいいかと思っている。

（市長） 私もそこに載せた中で、必ずしも校区を変えろというわけではなく、よりよい教育を目指すために必要なものは出てくると思う。

適正な学区規模というものがあると思うが、中学校は生徒数で言うと培良がかなり減少し、野球部もない。小学校も、増えているところもあれば、伝統的な学校であるが、開発がほぼ完了している地域で生徒数が減少しているところもある。その伝統ある地域とのつながりというのは大事で、総合的な学習の時間でも絶対に有効になってくると思う。地域のつながりをずたずたにしてまで学区を再編するつもりは全くないが、そこをベースとしつつ、どう学びを実現化できるかを考えておかなければならぬと思う。

（委員） 教育委員は、計画訪問で学校を訪問する他に、学校に出向いて様々な話を聞くようなこともしているので、京田辺の小中学校それぞれの特色があり、地域の方の思いも理解できるようになった。

ただ、統計上は人数のアンバランスが出てきているし、今後もアンバランスが生じるおそれがある。人数調整は避けられないとは思うが、単純に線を引き直してできるような問題でもないと思う。

普賢寺小学校は特認校制度がある。多様な子どもが集まるようになり、行事も一生懸命で結構おもしろく、特認校制度のよさをよく生かしていると感じる。培良地域のところでも生かせたら、無理に線を変えなくても何らかの形の人数調整ができると思う。ただ、魅力のあるものにし、来たくなるような学校にしないと駄目なので、そこが課題だと思う。

(市長) 例えばＩＣＴ、情報教育に徹底的に特化をするとか、その人数規模だからできる教育があるはずです。先ほど出ました外国語に対しても、きちんと教育をしていくという話になれば、また違う魅力が出てくると思う。

(委員) 福岡県の小学校に行くと、子どもたちが個別にパソコンに向かってフィリピンの人たちと会話の勉強していた。やろうと思えば、外国語とＩＣＴと接合したカリキュラムもできる。

(市長) 本市はまだ海外に提携しているところはないが、地元には大学の関係があり、アメリカの小学校とつながりができたら、ＩＣＴでお互いが見える環境でできるかもしれないし、そういういた可能性の模索ができないかなと思う。

(委員) 教育長がよく言っておられるが、小中一貫のカリキュラムをつくったり、就学前、5歳児からもやっているとか、魅力あるつくり方をすれば結構来てくれるのではないかと思う。

(委員) 保護者として、特色のある学校に入れたいと考えている方は多いと思う。英語教育やＩＣＴに特化しているとか、そういう特徴を前面に出していくば、今までのイメージも払拭できるし、校区再編というよりは、学校をまず改革していくことのほうが、子どもたちにも、保護者にとってもいい結果につながるのではないかと思う。

(委員) 確かに校区の線引き一辺倒ではないと思うが、学校に視点を当てると、格差、悪い意味でなくて特徴があります。その格差をどう埋めていくかという思いもある。

東部の学校は最近人数が200か100ほどにまで減ってきている。

(委員) 一クラスになりつつある中で、小中一貫校にするというような施策もあるが、同時に地域の理解や信頼を得ながら適正化規模をどうつくっていくかというアプローチも必要ではないか。

京田辺市で旧の五つの小学校と三つの中学校という厳格なイメージで考える方もいるが、もう少し弾力的に格差をどう解消していくか、特色をどう出していくか、今の子ども

たちにマッチした施策を早く出すことが必要ではないかと思う。小中学生の子どもさんがしっかりととした教育環境の中で勉強できるというようなのが一番大事じゃないか。東部に子どもが少ないので、都市計画にも理由があると思う。教育行政だけの話でなく、市全体としてどうするか、そういう制度設計が大事。

(市長) 昔は都心では、タワーマンションができるたびに校区変更という状況もあった。開発業者は建設すれば関係ないですから。あとはお任せしますという感じで地域とのつながりがぎりぎりになる。その学校って本当にいいのだろうかと思う。しっかりとした教育環境ということで、プレハブ校舎が10年続くというのが果たしてよいのかということは考えなければならない。そこは、どの辺までにどうするかという議論は少し進めていかなければならないと思う。

(教育長) 一応10年想定してプレハブの建設をこれからするが、人口推移というのはあくまでも予測であり、今後、京田辺がある意味で人口ではうれしい悲鳴をあげるようになるかもしれない。その時に、プレハブのままさらに行くのか、そこまでの間にきちんと適正規模になるような施策を考えなければならないと思う。それが単に線引きがどうのこうではなく、やはり魅力と特徴がある教育、そこをどういうふうに各学校に落とし込むか、あるいは場合によっては特化するかと、そこは本当に本当に急いで考えないとならないところ。

(委員) 全国的に見れば少子化で学校も減っており、子どもの数が減っている。京田辺市、木津川市、精華町は、逆で嬉しい悲鳴を上げているわけだが、学校の実態で見たら、例えば今、35人学級で36人いれば18、18となる。逆に言うと、児童増でクラスが多いほど母数は増えてくる、1学年の母数は増えてくる。

平成元年頃は、空き教室を生活課ルームとか展示場とか様々な活用ができていたが、今はそういう部屋がみんななくなつて教室しかない状態。その辺のところを含めて、学校の子どもたちの椅子もそうだし、部屋の空間の適正化も大きな課題。

(教育長) 京田辺市の不登校児童生徒数は若干高いかなと思う。それと、支援が必要な児童生徒たちの数も多い。

他市においては、中高一貫、小中一貫も含めて様々な取組をされていて、本市が遅れているということではないが、様々なことを学んだり、専門家の新たな取組とか、各市町の状況を聞かせていただいたり、あるいは場合によっては

海外の取組とかも含めて、そういったことを一旦我々が知ることが大事。それをどう京田辺市の中で教育として生かしていくかと、そういう議論も必要なんじゃないかと思っている。

(委員) 人口減少地域では、幼稚園から高校まで一貫で、要するに一つしかないので、できるだけ帰ってきてもらいたいので、大学進学を補助したりするようなこともされている。地域性があるとは思うが、まずは情報、現状を共有することはすごく大事かなと思う。

(教育長) 講師の先生を招いて、場合よっては教育委員会同士の交流とか、協議できるような意見交換ができるようなものがあればと思う。

(委員) 京田辺市は割に先進的に様々な取組をしているように思うが、他市町を見ると花火を打ち上げる。でも、京田辺は割と地道なようなことをされていますから、そういう意味では質的にすばらしい。

例えば大阪府枚方市と京都府京田辺市、特別支援の考え方、全然違う。どういうニーズに基づき実施しているということをきっちり発信して、そういう中でしっかりと人も含めて考えているというか、施設も含めて、そういう絞り込んで特色を出していくと。金銭的に難しいところがあるが、現場と相談しながらきっちりやっていかないといけないのかなというような思いは強く感じている。

それともう一つ、現場は平均年齢が若くなっている。担任の先生で小学校は平均30代くらいという話で、管理職も若くなっている。この辺の素地がどれだけ実践力とか、様々な意味で力を付ける場をつくっていけるかなということを考えると、難しさがある。

働き方改革で、会議をもつ時間がないという話がある。学校で会議がもてないというのは、現場の先生方の実践力とか能力の向上も含めて、どんな形にしていくかなというの大きな課題になってくるかなと思っている。

(市長) 不登校の子を以前は学校に戻すことが大前提だったが、その状況ではなくなってきており、どういった学びの場が提供できるのかということもあわせて考えないといけない。ただし、なぜかということを突き詰めていく必要はある。大綱の中に、多様な学びというのを位置付けたのは、珍しくこの京田辺市にはオールタナティブなスクールがあり、これはほかにない特色であるから。しかも明確に教育方針を持って実践しておられるので、教育委員会としては難しいのかもしれないけど、田辺の教育という前提の中でいく

と、そこも取り巻いた環境だと認識をした上で議論をしておいたほうがいいという思いがあって、入れさせてもらっていた。

(委員) 公教育ではない多様な学びの場として京田辺の教育の特色ではあると思う。全国的には珍しく、視察も多い。そこに通わせために京田辺に引っ越してこられる方もいる。

(委員) うまくすみ分けというか、上手にいけたらいい。

(委員) 何か交流をもったほうがいいのかなと思う。どういう運営の仕方をしているのかということを理解するために。

(委員) 毎年2回ほど公開日がある。

(委員) 先方からも来てもらってもいいのではとも思う。

(委員) 基本的に在籍は京田辺市の公立学校という位置づけ。

最近はスクールに通わせている保護者の方が、私学と同じような感覚でおられて、公立学校に席を置いてという認識が希薄化しているのか、転出する時もいつの間にか転出されたという話を聞く。本来は教育委員会へ転出届を出して次に行かれたらいいのだが、その辺のところがどうすり合わせるかということが大事。

また、独自性を大事にされているというのもある。その辺の難しさが逆にあるのではと思う。しかし、多様なものをうまく結んでいくことは大事だと思う。

(教育長) 市長には十分ご理解いただいていることだが、不登校に対して学校側が、学校に来ることが全てということは言っていない。教員の思いは、一緒に学ぶことでその子は身に付けることがたくさんあるから、だから学校に来てほしいと。それも一つ。それから、多様な学びという意味では、別に学校にとらわれる必要もない。その辺をどう上手く全体をコントロールするか、その子あるいは保護者も含めて選んでいくか、そういうあたりかなとは思っています。

(市長) 来年度に向けて言うと、懇話会になるかどうかという話は片方で、もうある程度テーマを絞った上で議論を進めていくということが大事なのかなというふうに思った。

絞るテーマを少しフォーカスしていくことが大事かと思う。